

岳南会ニュース

第32号

発行
令和4年1月1日
長野県野沢北高等学校
岳南会
TEL 0267(62)0020
FAX 0267(63)5290
印刷 (株)佐久印刷所



美術班作製：令和3年度日輪祭シンボルウォール



岳南会会長
吉岡 徹
(57回)

明けましておめでとうございます。コロナ禍のもと、皆様におかれましてはいかが新春をお迎えになられましたでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の発生以来今日までの2年間、私たちの日常生活は大きく様変わりし、多大



学校長
山崎 裕史

岳南会の皆様には、日頃より物心両面にわたり温かいご支援をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

夏に感染が拡大した影響で、10月23日に予定しておりました創立120周年記念式典は、来年度10月22日へと1年延期となりました。準備を進めていただいただけに大変残念ではありますが、来年度、盛大に実施できま

な不便と自制を強いられました。母校の修学形態や学校行事にも様々な制約や困難が生じたこと聞き及んでおります。そんな中でも教職員の方々の職務への強い思いと工夫をこらした取り組みによって、学習環境が整備・確保され、確かな学校運営がなされてきたことに対しまして、同窓会として深甚なる敬意と感謝の意を表したいと思います。

一方私たちが予定していた「創立120周年記念行事」もこのコロナ禍によってやむなく、本年10月へと1年間延期することになりました。

さて、私たちにとって目下の最大懸案である母校と野沢南高との統合・再編に伴う新校開設につきましては、交通アクセスのよい場所へ佐久地域の進学の拠点校として若人が憧れる新校を、との基本方針のもと鋭意取り組んでおります。詳しくは本紙6面の篠原副会長(再編検討委員長)の報告をご覧ください。

備、探究講義室の整備等をしていただきました。岳南会の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

さて、今年度もコロナ禍で、様々な制約がある中で教育活動を進めてまいりました。

感染の波が落ち着いているところで、昨年度できなかった強歩大会、日輪祭、体育祭は、感染防止対策をし、内容を工夫して実施することができました。2年の修学旅行は行先を変えたことで、1年の学習合宿も実施することができました。すべての行事を実施することはできませんでしたが、生徒が生き生きと活動し、笑顔が戻ってきたことがなにより嬉しいと思います。またこの間、できないことを嘆くのではなく、できることを考え工夫する生徒の姿を見て、北高生の底力を感じました。

昨年度から5年間「未来の学校」構築事業「卓越した探究的な学びを

最後に以下2点ご報告いたします。

①岳南会活動協力金について
会計報告にありますが通り、昨年は計450万円を超えるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

②卒業周年事業(寄付)
昨年は第86回卒(代表・若林俊二さん)の皆さんから卒業30周年記念として学校への210万円に加えて、当岳南会へも100万円のご寄付をいただきました。このご寄付はご相談の結果、120周年記念事業のテレビ番組制作費に使わせて頂くことになりました。ありがとうございます。

末尾になりましたが、コロナ禍の1日も早い収束を願いつつ、本年が皆様にとつて健やかで実り多い年となりますことを祈念いたしましてご挨拶と致します。

推進する学校」として県から指定を受け、2年目となりました。同窓生をはじめとする地域の皆さまのご協力で、コンソーシアムの構築に一步踏み出しました。生徒の探究的な学びが進みますよう、今後も同窓生の皆様のご協力をお願いできればと思います。

また、佐久新校の設置に向けて、再編実施計画懇話会において、未来社会の核となる生徒を育てる佐久の拠点校、学びの拠点となる進学校に向けて、話し合いが進んでいます。在校生の学びを推進しながら、新校へとつなげていきたいと思っております。

いまだコロナの終息は見えない中ですが、それぞれの生徒が希望の進路に進めるよう、取り組んでまいりたいと思っております。

終わりに、会員の皆様には、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りたくお願い申し上げます。

縁

文教大学教育学部
発達教育課程

教授 藤森 裕治(75回)



くれた舞台写真がある。
大学時代の夏休みに、OBとして英語班を訪れた折りのこと、後輩の女子たちが昔のアルバムにあった私の写真を指さして、「この先輩に会ってみたい」と言う。彼女たちの夢を壊すには忍びなくて、「今、目の前にいるんだけど」とは言えなかった。



■母校へ

野沢北高で私が所属していた英語班は、当時30名を越える大所帯だった。活動の大半は、日輪祭で行われる英語劇公演の制作に費やされていた。
劇の選択と配役は、2年生が中心となる。私の代は南北戦争時代の米国を舞台にした小説「風と共に去りぬ」が選ばれた。与えられた役は、ヒロインの夫で野心家、異端児の個性を持つレット・バトラーだった。

役作りにと、梅雨の季節から口ひげを伸ばした。悪目立ちをさせるため、中央名店で純白のスーツを買った。英語の台本は全員の台詞を暗記し、アドリブもいくつか加えた。
しかし、肝心の英語の成績は一向に伸びなかった。
同級生の中澤和夫君が撮って

大学を卒業して都立高の国語教師になった。何度も母校の夢を見た。トイレ臭い廊下、体育館前の水飲み場、教室の窓越しに聳える浅間山、蓼科山に光る宵の明星、夕風にざわめく校庭のアカシア、岳南堂……。高校生活の傍らにあった点景が、夢では主役だった。
ある年、岳南みずす会という集まりから誘いを受けた。首都圏で大学や学校に勤める人たちの同窓会である。八峰閣という池袋の旅館に参集し、会食して消息を語り合う会であった。
席上、校長を務める先輩が、新人の私にしみじみつぶやいた言葉がある。
「若い君には分からんだろうが、

この歳になるとね、佐久に帰りたいという思いが募るのだよ」
この言葉がずっと心の片隅に残ったまま、都立高校で15年の月日が過ぎた。

その後、私は、縁あって信州大学教育学部に転職する。それから20年間、国語科教育研究と教員養成に打ち込んできた。輩出した国語教育分野の学生は600名を超え、大半は長野県内で教師となっている。

信州大学に異動して6年後、野沢北の進路指導部から電話があった。蒔田芳明先輩だった。私が所属していた班の5年上にあたる先輩で、大学受験や採用試験の際、何度も自分の部屋に泊めてくれた恩人である。
こんな依頼だった。

「母校の可愛い後輩のために、進路講演をやってくれないか」
都立高の教師時代に見た夢を思い出した。むろん快諾した。

蒔田先輩が野沢北を出た後も、叔父の原田憲三(故人)が着任したり、大学の先輩だった田澤



出前授業 (2015年)

直人さんが校長になったりして、現在までほぼ間断なく、母校の進路講演や出前授業を依頼されている。この間、日輪祭で開催したデイベート大会に助言者として参加したり、学習合宿に1泊2日で参加したりもした。
質実剛健の校風を誇りにしていた当時に比べ、生徒の様子は柔らかく華やいだ印象になっている。しかし、ともに野沢北の一員である(であった)という事実は、私に濃密なつながりの存在を実感させてくれている。

■輪と縁

昨年の4月、私は埼玉にある文教大学教育学部に転職した。現在の専門は、幼小接続研究である。高校教師として出発し、小・中学校の教員養成に努めてきた自分にとって、残るフィールドが幼児教育だった。これに挑戦して、幼児期から高校までの18年間を知悉してみたい。そんな思いから選んだ道である。奇しくも隣の研究室には、同じ岳南会員の小野澤(旧姓佐藤)美明子教授がいる。

現在の研究テーマの1つに、「人はなぜ輪になるのか?」という問いがある。幼児教育から社会生活に至るまで、人々は、さまざまな場面で輪になったり輪を描いたりする。この物理的な形態を持つ心理的效果とは何かというのが研究課題である。
この研究については、母校の出前授業でも、「輪の民俗学」と題して後輩たちに話している。昨年は八十二文化財団の「地域

文化」133号で「輪」が特集され、巻頭論文に少考を述べた。そこで示した心理的效果の1つに、次のものがある。

○共同体への信頼感と、個々が大切にされている安心感。
この心理的效果は、必ずしも物理的な形態を伴わない。人間関係の円満さとか、文化伝統の継承といった精神的な次元で、我々は共時的あるいは通時的に輪を描くことができるからだ。それによって、互いに信頼関係でむすばれた民主的な共同体が生成されるのである。

「輪」の同訓に「和」があり、「輪」と同じ形状を表す「円」の同音に「縁」があるように、人は輪というイメージをもつてつながり合い、和やかな日常を生きる。そこには過去と現在とをつなぐ人の縁があつて、実在と安定に満ちた共同体を生む。宣長の歌に由来する校章にも、輪の精神は込められている。

ところで、この会報への寄稿を依頼してくれた伴野健一君は、私と同じ75回生である。彼を初め、現在の野沢北には小学校から同級生だった白石克典君、信州大学での教え子だった澤田浩文君がいる。かかる縁が輪になって、後輩たちと出会う機会に恵まれている。

思えば、これまで多くの縁によって母校とつながってきた。岳南会という輪が、時間と空間とをまたいで、私の人生に深くかかわっている。それは今後も続いていくだろう。

86回卒業生30周年を迎え

我々86回卒業生は卒業から30周年を迎え、50の年を重ね人生の分岐点に立っています。

誰もが経験の無いコロナ禍という不安な状況下でも、それぞれが企業や地域社会、また家庭において多くの役割を果たしていることと思えます。

30周年記念事業を行う年を迎え、母校への恩返しをする機を得ました。先輩方から記念事業に関する資料等をいただき、地元を中心に検討しましたが、コロナ禍での同窓会召集は叶いませんでした。

卒業から20年を経た年に同窓会を企画し全クラスに声を掛けました。その時は90名の参加があり旧交を温めることが出来ました。その3年後

に再び同窓会を企画し60名が参加。こうした2度の開催経験から絆を深めて今回の事業へのスムーズな流れが生まれました。

在学当時、切磋琢磨した3000名を超える同級生がそれぞれ全国各地で活躍をしていることが、お互いの励みになっていると思います。野沢北高校を卒業したことが、時には助けになり重圧になり、今では誇りになっている。今回の記念事業は寄付活動のみとなりましたが、それぞれの思いが1つとなり、(歴代でも多額となる)母校120周年を祝い、寄付を届けることが出来ました。

今回の事業に携わった多くの友人に感謝し、1日も早く再び集まる機会を得たいと願います。そしてすべ

ての野沢北高校卒業生のご活躍と在校生(現役生)の活躍を祈念致します。



令和3年総会報告

総会は、恒例の1月5日、佐久グランドホテルにて開催。年頭挨拶は高見澤俊雄会長、新任の山崎裕史校長の挨拶及び母校近況報告があり、柳田清二(佐久市長(85回))より祝辞を戴いた。いずれも、コロナ禍の中の総会開催を多とし、母校創立120周年を祝い、県立高校再編対応に触れるものであった。

議事に入り、議長は由井正巳(佐久町副支部長(61回))と橋詰希望(小諸支部長(64回))が務め、会務報告・決算報告及び監査報告・会務計画・会計予算が、順次、原案通り議決された。

議案では、当面の課題である母校再編統合問題及び創立120周年祝賀行事について対応を話し、役員改選時期にあたり、田原実夫(銚衡委員長(60回)・白田支部長)から銚衡結果が提案され、承認された。

〔退任役員〕
高見澤俊雄(51回・佐久町)
柳澤重也(60回・浅科)
篠原節子(68回・青沼)

〔継続役員〕
篠原秀郷(65回・小海)
井出亜夫(58回・東京)

〔新任役員〕
吉岡 徹(57回・大沢)

田原実夫(60回・白田)
木内美穂(71回・中込)

この後、新会長挨拶があり、退任役員へ感謝状が贈られた。

記念講演は、原真人(朝日新聞編集委員(76回・岩村田))により、演題「コロナ禍と日本経済の行方」のもと、図解活用により日本経済の現状を分析し、問題点からの脱却を示唆するもので、フロアからの質問も多く、明快な説明により好評だった。

例年の吹奏楽班による新春演奏会と新年懇親会は、コロナ禍対応のため自粛となった。

令和3年 会務報告(総会1月5日以降、事務局把握分)

- 1月5日(火) 第1回役員会・第1回代議員会 令和3年岳南会総会 於佐久グランドホテル 参加者約80名
記念講演 原 真人氏(76回卒) 朝日新聞編集委員
演題「コロナ禍と日本経済の行方」
- 1月23日(土) 120周年記念事業 記念誌部会
- 1月30日(土) 岳南会ホームページリニューアルオープン
- 2月 1日(月) 第10回再編検討委員会(同窓会館)
- 2月19日(金) 岩村田支部総会開催 出席者 12名 会長出席
- 3月 2日(火) 野沢北高校卒業式 三役出席なし(会長祝辞プリント配布)
- 3月27日(土) 120周年記念事業 記念行事部会・記念誌部会
- 3月30日(月) 第11回再編検討委員会(同窓会館)
- 4月 6日(火) 野沢北高校入学式 三役出席なし(会長祝辞プリント配布)
- 4月17日(土) 白田支部総会開催 出席者26名
正副会長、学校長、事務局出席
- 4月28日(水) 岳南会ニュース臨時号発送(昨年度協力金賛同者へ)
- 5月 7日(金) 第12回再編検討委員会(同窓会館)
- 5月29日(土) 120周年記念事業 総務部会
- 6月 6日(日) 戦没者等慰霊祭 貞祥寺 三役出席
- 6月11日(金) 学有林視察 第2回役員会 山林管理委員と懇談会
- 6月12日(土) 第4回120周年記念事業実行委員会
- 6月19日(土) 120周年記念事業記念誌部会
- 7月 6日(火) 第13回再編検討委員会(同窓会館)
- 7月10日(土) 120周年記念事業 記念行事部会
- 8月18日(水) 第14回再編検討委員会(同窓会館)
- 8月20日(金) 第3回役員会(同窓会館)

- 8月21日(土) 第5回120周年記念事業実行委員会(同窓会館)
- 8月28日(土) 第2回代議員会(同窓会館)
- 9月12日(日) 岸野支部総会開催 出席者16名 正副会長、事務局出席
- 9月18日(土) 120周年記念事業記念誌部会
- 10月15日(金) 第15回再編検討委員会(同窓会館)
- 11月15日(月) 第16回再編検討委員会(同窓会館)
- 11月30日(火) 会計監査(同窓会館) 会長、監事、事務局
- 12月 4日(土) 野沢支部役員会開催 出席者18名 会長、事務局出席
- 12月10日(金) 第4回役員会・懇親会(同窓会館、鶴寿司)
- 12月18日(土) 120周年記念事業 記念誌部会

会務計画(今後の予定)

1. 令和4年 岳南会総会(代議員会あり)
1月5日(水) 岳南会総会 10時~代議員会 13時~総会
※講演会・懇親会有
於: 佐久グランドホテル
2. 役員会(年4回 1月 6月 8月 12月)
3. 代議員会(年2回 1月 8月)
4. 各支部総会(各支部ごとに計画)
5. 再編検討委員会(適宜)
6. 120周年記念事業実行委員会及び各部会(適宜)
7. 岳南会ニュース発行、協力金依頼(12月中旬)
8. 「卒業周年記念同窓会」: 30周年(88回卒) 50周年(68回卒)
9. 創立120周年記念行事 令和4年10月22日(土)

岳南 問わず語り

前会長 高見澤俊雄

〈初めあるもの終りあり〉と謂う。このところ、高齢にコロナ禍の奇妙なゆとりの中、少子化を憂いつつ、母校の来し方・行く末に思いを馳せている。

つい最近まで、母校の卒業式の来賓祝辞では、いつも、必ず「Be a challenger for your mission in life.」（自らの使命を求める挑戦者たれ）と励ましてきたが、自身自身の使命は、〈母校ファースト〉に徹することと覚悟してきた。そして、その母胎を成すものは薊沢の学舎で得た母校への憧憬と矜恃に依るものと思っている。

その昔、入学式の前日、隣の小林仁道先輩（48回）から「俊坊、これ付けて行けや」と云われ、母校の徽章を貰った。旧制野沢中学と新制野沢北高の6年間、授業料を払い、生徒会長も勤めた先達で、北大理類に合格し旅立つ直前の贈物で、緑青の生えた貫祿ある徽章で嬉しかった。まだ帽子を被り登校した時代、翌日、上級生に呼出され、いい度胸だと揶揄され、キンピカの徽章に替えさせられた。

この徽章（校章）は、国学者本居宣長の「敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」の桜花と光芒を表象したもので、彼が賀茂真淵と対面した（松坂の一夜）での一徹さには、ただただ傾倒するばかりである。

続いて、時には砂塵舞う校庭で2週間、応援練習が行われた。ここで叩き込まれて秀逸なのは、「学生歌」と「選手慰安の歌」で、

作詞は、前者が秋山晴夫氏、後者が島崎栄蔵氏で、共に岳南22回生校歌無きことを憂いた13回生が創立25周年（大正15年）を記念し在校生に懸賞募集した際の入選作（第2位・第3位）で、第1位は該当なく校歌は未定だった。

本校で最初に校歌を作成したのは白田紀六氏（第1回生）で、昭和8年、同窓生で初めて母校校長として赴任され、県教委が紀元2600年を控えて校歌申請を通牒。創立40周年も記念し、昭和15年当初に発表されたが、終戦直後、軍国の文言もと慮れてか、6年の命だった。先生は、晩年、私達の書道の非常勤講師で、温顔にして鷹揚であらせられた。

現在の「野沢北高校歌」（草野心平作詞・小山清茂作曲）は、昭和35年、創立60周年記念の制定で、作詞者をお招きし、2泊3日、佐久の地をご案内。濁り酒濁れるを酌まれての結果で、以後、他にも同氏による同工異曲の校歌が多く知見されたが、私は、我が母校の校歌が簡潔で格調高く最高と自負している。

終りに、母校の伝統として守り続けたいものは、平成年代当初から30余年、日輪祭最終日に実施されてきた「交響曲第九全校合唱」で、コロナ禍のため中断も余儀なくされてきたが、全国に誇り得る母校の宝として琢き続けることを願っている。

旧制「野中」と「浦中」の縁

前副会長 柳澤重也

大学生活は、浦中で送った。

詩作にカブれていた私は埼玉県南の同人誌「朱樓」の主催の詩人榎皓志と出会えた。海軍特攻隊震洋の訓練中負傷し、部下は出撃、自分は生き残った小隊長であった。もう1人の詩人は、江田島兵学校最後77期の生徒であった。

縁の始りは「野中」と海軍兵学校。2人にはよく酒席を共にさせてもらったが、要は私が、野中の新制校出身であったことがきっかけ。長野も埼玉も海無し県。その中で常に兵学校に何人もの優秀な生徒を送り込んだことで兵学校関係者、特に浦中関係者では、野中が最も注目されていたと云う。

野中の先輩では、恩賜の短剣組が、柳澤蔵之助少将、草間四郎大尉等がいるが、浦中では、70期首席の高柳育郎大尉、いずれも戦死。特に高柳家では、男子4人戦死又は阿波丸での戦没死。榎先生を中心に墓守りをしていた。私もその一隅に加えて戴き、卒業後もずっとお付き合いが続いてきた。このことから、母校の縁で私の人生は、今に至るまでまさに大きな恩恵を戴いてきた。母校に感謝である。

その他幾多の母校の先輩同輩諸氏も多大なお世話を戴いたが、退任の辞を借りて心から感謝をいたしたい。

同窓会副会長退任挨拶

前副会長 篠原節子

この度、2期務めさせて頂きました同窓会副会長を退かせて頂くことになりました。長い歴史と輝かしい実績を誇る野沢北高校の同窓会の運営に、微力ながら携わらせて頂きましたことを大変光栄に思っております。在任中は多くの方々にお教え、お導きを頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

さてこの、まさに佐久地域の教育を牽引してきた本校の名前が、野沢南高校との統合によりあと数年でなくなりそうです。大変残念なことです。しかし私はこの変革は、やや停滞気味の本校に新校という新しいステージが与えられたものと思っております。折しも時代は嘗てない激変の流れの中にあります。流れをどう捉え、どのような杭を打つか、これは好機でもあり、

試験でもあります。新校は野沢北高校の伝統を継承し、質の高い教育を実践して、地域の学びの拠点校としての役割を担っていくことに変わりはありませんが、加えてこの時代です。社会の変容に伴う知識体系の変化に対応した教育環境を整備することも必要ですし、また人間形成の面でも、個としての自立、他者に対する想像力、そして俯瞰する目を涵養することも重要です。

新しい時代に叶う力を備えた新校に、この佐久の地で脈々と築かれてきた野沢北高校の名門校としての歴史が引き継がれていくことを願ってやみません。お世話になりました。



岳南会 令和4年総会のご案内

日時 令和4（2022）年1月5日（水）
総会 ● 13:00～
（議事 会務・会計・創立120周年
記念事業・高校再編 規約改正等）
記念講演 ● 14:00～
演題
「あの日に帰りたいー野沢北高生だったころの柔らかい脳に戻りたいー」
講師 小泉修一（78回卒）
山梨大学医学部教授

場所 佐久グランドホテル 2F
佐久市中込 ☎ 0267-62-0031

連絡先 岳南会事務局（野沢北高校内）
☎ 070-4306-5364

県立高校「未来の学校構築事業」報告

野沢北高 探究係 伴野健一 (75回)



整備された探求ステーション

令和元年度末、本校は県教育委員会の主幹する標記事業の内、全県で一校、「卓越した探究的学びを推進する学校」として指定を受けました。平成26年の職員アンケート「本校生に欠けている物は何か」から始まった、本校の「探究」導入の後を追いかけるような形で全県的に始まった「探究的学び」について、さらに研究を深め、広げていくことが求められたわけですが、指定1年目の昨年度はコロナ禍のためほとんど活動ができませんでした。指定された期間は5年間なので、今年度こそは何か形にしたいものだと考え、次のような目標を立てて取り組みを始め、徐々に成果が現れ始めています。

- イ. 専用の基本機能を整備し、利用者の声に基づく改善を進める。理数科課題研究において、先端的な研究に取り組む外部の専門機関を訪問、及び大学教授等の専門性の高い外部人材による出前講座を実施し、生徒達の科学的見地を広めると共に、カリキュラムのブラッシュアップを図る。
- ウ. 探究的な学びを実施する上で、生徒の学びに助言や支援をいただく地域の専門性の高い外部機関に協力を要請し、担当者に来校してもらうまたは担当者を訪問する。(フィールドワークへの協力やワークショップへの講師派遣等)
- エ. 本校の研究開発に協力・賛同いただく地域の連携先から「政策」、「科学技術」、「ビジネス」、「市民活動」の4つの観点に沿う外部機関の代表をコアメンバーとして選出し、「佐久地域コンソーシアム(仮)」の構築に向けてコアメンバー会議を立ち上げ、年4回程度実施し、本校の研究開発や学びのプログラムの改善及び今後協力いただける

令和3年度 岳南会 一般会計決算書

会計期間 令和2年11月16日～令和3年11月15日

収入総額 16,993,650円
支出総額 6,493,866円
差引残額 10,499,784円

【収入の部】		単位:円	
項目	収入済額	備 考	
入 会 金	1,160,000	6,000円×193人(令和3年4月入学生)・2,000円(3学年編入生)	
卒業生終身会費	2,010,000	10,000円×201人(令和3年3月卒業生)	
総 会 会 費	0		
事 務 費	300,000	岳南塾より事務職員人件費補助	
岳南会館維持管理費	483,500	2,500円×193人(令和3年4月入学生)・1,000円(3学年編入生)	
進路指導支援費	483,500	2,500円×193人(令和3年4月入学生)・1,000円(3学年編入生)	
岳南会活動協力金	4,449,083	郵便局(2,224,353)・コンビニ(2,191,730)・現金(33,000)	
繰 越 金	8,020,178		
雑 収 入	87,389	護持会費、名簿代、利息等	
合 計	16,993,650		

【支出の部】		単位:円	
項目	支出済額	備 考	
会 報 発 行 費	2,319,032	会報印刷費、封筒印刷費、振込用紙印刷費、郵送料等	
総 会 費	384,156	会場費、講師謝礼、旧役員感謝状一式、総会案内用往復葉書等	
役員会議費	77,056	三役会、代議員会、会計監査等	
支部会議費	36,000	祝儀、旅費等	
高校再編検討会議費	123,000	旅費、活動費等	
慶 弔 費	281,179	饗別、香典、卒業証書用ホルダー、新入生校章バッジ等	
財産管理費	95,480	固定資産税、山林管理費、名義変更費等	
クラブ等後援費	239,500	1,000円×193名、全国大会祝儀等	
進路指導支援費	600,000	進路指導支援	
岳南会館維持管理費	974,109	会館電気料、会館放送機材更新、会館トイレ清掃、非常灯修理費等	
事 務 費	760,454	事務職員人件費、事務用品、葉書、封筒、切手等	
予 備 費	603,900	岳南会ホームページ管理	
合 計	6,493,866		

令和3年11月30日
会計監査 篠澤 一平 (印)
木内 清 (印)
荻原 泰昭 (印)

外部団体の選定、折衝について話し合いを行う。また、授業参観やワークショップを通して、生徒の進めている探究の内容について助言いただいたり、今後生徒に探究して欲しい地域課題をそれぞれの立場から提示していただいたりする。

本校の探究的な学びの情報発信の一環として、また生徒が探究して得たプロダクトを評価する場として、各種発表会への参加を積極的に促すとともに、コアメンバーを審査員とするプレゼンテーションコンテストを計画する。

本校職員が統一の理念で生徒に指導、支援ができるように、探究的な学びにおける指導方法等について外部講師を招き、外部講師を招き、年3回程度職員を対象とする探究的学びに関する指導法等の研修会を実施する。

これまで(10月末)のところ、本校探究係を中心とした活動の中で、今年度入学生使用にテキストを大幅に改訂し、1年次から模擬的な探究をする機会を設け、PBLの手法を活かした活動の流れが整理されました。また、11名のコアメンバー(ほぼ半数が岳南会員)による会議を立ち上げ、「佐久地域コンソーシアム(探究活動協力団体)」設立に向かって大きな一歩を踏み出すことができました。実際に外部から意見を頂くことで、本校の活動がより良いものに育っていく予感を感じています。

施設としては、北館1階の図書館に最も近い教室を、「探究ステーション」として、学習用の椅子、机、書籍、PCなどを整え、共同学習スペースとしての利用が始まりました。この「探究」に関わる動きは、高校再編計画による新校の教育活動をデザインする上でも重要なカギを握っていると感じています。岳南会からの物心両面でのさらなるご支援をお願いいたします。

佐久地域の人口減少に伴い、普通科高校の再編計画が発表され、現在、新校の目指す学校像、生徒像など、その方向性についての意見を懇話会で集約している。ここで、この件に関わる2020年からの動きをまとめておきたい。なお、二〇二〇年などは二〇二〇年として見ていただきたい。

二〇二〇年一月 「佐久地域の高校の将来像を考える地域の協議会」から佐久地域の高校の将来像について意見提案がなされる。

二〇二〇年六月 佐久地区再編統合地域説明会実施

二〇二〇年九月 「高校改革 夢に挑戦する学び再編計画【一次】野沢北高校と野沢南高校の再編統合を発表。新校の学校像として、例えばと前置きがあるが、「卓越した探究の学びの拠点とし、「地域に根ざした未来のリーダー育成校」を構想する。」「探究活動を積極的に推進し、生徒や地域の高度なニーズに応える個別最適な学びを追求する新たな普通科教育推進校の場とする。」と発表

二〇二〇年十一月 第一回佐久新校再編実施計画懇話会実施

二〇二〇年二月 第二回佐久新校再編実施計画懇話会実施。この会に野沢北・野沢南同窓会連絡協議会から期待する学校像および、「深い教養・広い視野・強い意志」を柱とし

た目指す生徒像が示された。以降、10月現在で、第7回まで懇話会が実施された。

現在、県高校再編推進室からの担当と野沢北・南の両校の教頭・職員4名ずつの11名をプロジェクトチームとして、両校からの新校に対する意見集約を基に、話し合いを行っている。

◎新校に対する基本的な考え
・北、南の2校を合わせた学校を作るのではなく、新しいコンセプトで佐久新校を作り、そこに2校を統合する。
・地域の期待に応える進学校にする。
・1学科として募集をする（2学科とする）、一方が北高の流れ、他方が南高の流れと捉えられかねない。

◎目指す生徒像の柱
・深い教養と真実を見極める目を持つ生徒
・自主、自立の精神を持って行動する生徒
・豊かな創造力を持ち、社会貢献をする生徒

◎学び・カリキュラム
・探究的な学びを中心に据える。
・スーパード探究校で構築するコンソーシアムを活用する。
・旺盛な知的欲求に応えられるカリキュラムを工夫する。

今後も様々なご意見やご要望をいただきながら、佐久新校に対する意見をまとめて行きたいと考えています。

野沢北高新校準備委員会委員長
山下 純一（74回）

『野沢北・野沢南同窓会連絡協議会』の活動

『野沢北・野沢南同窓会連絡協議会（以下、連絡協議会）』は、2020年11月に発足し、これまで10回の会議を重ねてきました。新校の創設に向けて、野沢南高校同窓会と連携を深め意思疎通を図っていく、という岳南会の意思を具現化したものです。そしてさらに、2022年8月の岳南会代議員会で承認された「協力して諸課題の解決のため行動していく。」に従って相互に意見交換しながら具体的な活動を展開してきました。活動の主要な柱は次の2点に集約されます。

①新校の学校像を構想する。
②新校は「新しい校地、校舎」に開設する、という願いを実現する。

岳南会再編検討委員会は、2021年の1年間、この連絡協議会の推進母体として議論を主導するとともに、長野県教育委員会の組織した新校再編実施計画懇話会に同窓会長（懇話会委員）をとおして意見を反映することを活動の主眼としてきました。

学校像を構想する
学校像を構想し、新校について共通の理念と目標を持つことは、両校同窓会が最初に克服すべき懸案事項でした。2020年に開催された県主催の住民説明会では、野沢北と野沢南の統合について「新校のイメージが持てない」「難関大学をめざす佐久の中学生は上田に流出してしまふ」など、懸念する声が多く寄せられてもいたのです。

連絡協議会では、2校の平均化ではなく、佐久に求められる新しい高校を構想することを議論の根幹に据えることとしました。そして、「確かな学力と豊かな創造性を育み、生徒が高い志を実現することができ

学校」「人格を陶冶し、精神力や体力を涵養し、社会に信頼され、貢献できる生徒を育成する学校」を「期待する学校像」として公表しました（詳細は岳南会HP）
両校の先生方が組織する「佐久新校プロジェクトチーム」に働きかけるとともに、様々な機会に同窓会員や地域の皆さんに周知し、引き続き理解を広げていきたいと考えます。
新しい校地を希求する
現在の両校の校地は、JR小海線中込駅からいずれも徒歩25〜30分の遠距離にあり、佐久の中学生が上田方面に流出する一因ともなっています。連絡協議会では当初から、新しい校地の可能性について具体的な候補地を調査研究し、その実現に向けて県教育委員会に要望してきました。また、佐久市をはじめ地域の首長や佐久市選出の県議会議員の皆さんのご支援もいただけてきておりますが、実現には高い壁があります。新校再編実施計画懇話会に付設された校地検討部会の審議を待たなければなりません。

新校の開校年次は明らかにされていませんが、連絡協議会が7月に県教育委員会との間で確認した今後の日程によれば、およそ5年で準備を終える予定であるとのことでした。最大の懸案である校地・校舎に加え、校名、校歌、設置学科、教育課程募集年度・学級数など、岳南会にとつても等閑できない課題が山積しています。

再編検討委員会は、今後も岳南会の意思を丁寧に汲み取りながら課題に対応してまいります。

岳南会再編検討委員会委員長
篠原 秀郷（65回）

母校創立120周年 記念行事の延期について

令和3年10月23日(土)に開催を予定しておりました「創立120周年記念行事」は、新型コロナウイルスの感染が収束を見せない状況下であったため、第5回実行委員会（8月21日）及び第2回代議員会（8月28日）において、実施を令和4年に延期することに決定致しました。開催を待望していた皆様には残念でございましたが、今秋多くの同窓生の皆様のご臨席を賜りますようお願いいたします。尚、変更の概要は次のとおりです。

1. 期 日：2022(令和4)年10月22日(土)
2. 行事内容：変更ありません。記念式典、記念フォーラム、祝賀会を行います。
3. 場所：新しい式典会場、祝賀会会場を検討します。
それとともなって、当日日程が若干変わる可能性があります。
4. 関連事業
 - ① TV番組の制作：ABN(学校紹介)は予定通り作成され放映済みです。SBC、NBS(式典時)は新しい期日に合わせて制作し放映します。
 - ② 生徒記念品：記念品は今年度中に作成し、現3年生にも卒業前に贈呈します。
 - ③ 岳南会美術展覧会：記念行事の一環として開催予定でしたが、令和3年は中止しました。

5. その他
 - ① 延期された新しい記念行事の詳細については、令和4年4月以降岳南会HPでお知らせしていきます。
 - ② 延期された新しい記念行事に参加を希望される皆さんは、令和4年6月から7月末日の間に、今年と同様の様式(ハガキ)でお申し込みいただけますようお願い致します。
- 《記念誌の発行について》
予定どおり、2023(令和5)年2月に刊行します。ただし、記念行事の取材記事も組み入れる予定ですので、若干の遅延が予測されます。

進路指導室から

岳南会の皆様には、日頃から本校の進路指導に関し、多大なるご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。今年も現在の進路状況についてご報告申し上げたいと思います。

大学入試センター試験から移行し、初の実施となった、令和3年度大学入学共通テスト7科目型全国平均点は、文系55.2点(得点率

61・3%)、理系57.2点(同63・5%)でした。「ベネッセ・駿台データネット実行委員会予測」。本校文系生は59.6点(得点率66・2%)、理系生は57.8点(64・2%)となり、前年度同様、全国平均を上回る健闘を示しました。

▼卒業生の概況

令和2年度末における大学合格者数は掲載表のようになっていま

す。現役生の国立大学合格者数は80名(うち進学者は72名)でした。難関大学としては京都大・一橋大・名古屋大・大阪大に各1名の合格を果たしています。医学科については、残念ながら現役合格に結実しておりません。

地元信州大学に加え、筑波大・富山大各4名とあるように、県外では近隣の関東、北信越方面の大学に挑戦する生徒が比較的多かつ

たことが特徴であったといえます。また中・後期合格者20名と、「最後まで諦めずに挑戦する」という本校生の姿勢も継続して示すことができたように思います。

私立大学進学者は前年度より7名増え85名でした。卒業生数に対する割合は初めて4割を超え、4年制大学全体の進学者も78%と昨年度を上回り、ここ10年のなかで最も高い割合となりました。大学

入学共通テストの導入を初めとする大学入試改革やコロナ禍の中、不透明感の漂う社会状況とも相俟って、現役合格志向が強まっていることが本校でも窺える数字かと思えます。他方、浪人生は40名と前年度より増えましたが、自己の進路希望を叶えるべく、捲土重来を期しています。

入学共通テストの導入を初めとする大学入試改革やコロナ禍の中、不透明感の漂う社会状況とも相俟って、現役合格志向が強まっていることが本校でも窺える数字かと思えます。他方、浪人生は40名と前年度より増えましたが、自己の進路希望を叶えるべく、捲土重来を期しています。

大学等合格状況

(2021.4.1 現在)

卒業生数	国公立大学	準大学	私立大学	外国大学等	大学計	公立短大	私立短大	短大計	各種/専修	総計
201	現	80	0	291	0	371	0	0	2	373
	過	15	1	64	0	80	0	0	0	80
	計	95	1	355	0	451	0	0	2	453

国立大学合格者数

大学名	現	過	計
帯広畜産	1		1
北海道		1	1
北見工業	1		1
岩手	1		1
東北		1	1
山形		1	1
茨城	4		4
筑波	4		4
宇都宮	1		1
群馬	3		3
埼玉	3		3
千葉	2		2
お茶の水女子	1		1
東海	1		1
東京学芸	1		1
東京農工	3		3
一橋	1		1
横浜国立		1	1
上越	2		2
新潟	3	1	4
富山	4	3	7
金沢	2		2
信州	11	1	12
(人文)	3	1	4
(教育)	3		3
(経法)	1		1
(理)	2		2
(工)	1		1
(農)			
(繊維)	1		1
静岡	2		2
名古屋	1	1	2
豊橋技術科学	2		2
三重	1		1
京都	1		1
京都教育	1		1
京大工芸繊維		1	1
京大	1		1
神戸	1		1

私立大学合格者数

大学名	現	過	計
酪農学園	1		1
国際医療福祉	7	1	8
白鷺	1		1
群馬バース	1		1
群馬医療福祉	1		1
高崎健康福祉	2		2
埼玉医療	1		1
埼玉工業	1		1
尚美学園	1		1
駿河台	1		1
西武文理	1		1
東京国際	1		1
東都医療(東協)	1		1
獨協	1	1	2
日本医療科学	1		1
文部教	10		10
神田外語	1		1
淑徳	1		1
秀明	1		1
千葉工業	9		9
千葉商科	1		1
麗澤	3		3
青山学院	6	1	7
桜美林	3		3
大妻女子	1		1
学習院	1		1
北杏里	10	4	14
杏林	1	1	2
慶応義塾	4	2	6
工学	4		4
国学院	1		1
国士	3		3
駒澤	4	4	8
産業能率	3		3
芝浦工業	9	1	10
実践女子	3		3
順天堂	1		1
上智	2	1	3
成蹊	1		1
成城	1		1
専修	14	5	19
創価	1		1
大東	1		1
大東文化	6		6
玉川	1		1
多摩美術	1		1
中央	12	2	14
津田塾	3		3
帝京	2		2
東海	4		4
東京医療保健	1		1
東京家政	4		4
東京経済	1		1
東京女子	6		6
東京工医	1		1
東京電機	3	2	5
東京都市		1	1
東京農工	7		7
東京福祉	2		2
東京理	5	1	6
東京邦	3		3
東洋	11	3	14

公立大学/準大学合格者数

大学名	現	過	計
秋田県立	1		1
山形県立保健医療	1		1
群馬県立女子	1		1
高崎経済	1		1
前橋工科	2		2
埼玉立	2		2
東京都立	1		1
横浜国立	1		1
神奈川県立保健福祉	1		1
新潟県立	1		1
長岡造形	2		2
富山立	1		1
石川立	1		1
石川立看護	1	1	2
都留文	2	1	3
長野県立	1		1
静岡立	1		1
静岡文化芸術		1	1
福知山公立	1		1
防衛大	1		1

日	本	7	4	11
日本獣生命科学	1			1
日本女子	1			1
日本文学	1			1
法政	10	4		14
武蔵野	3			3
武蔵野美術	4			4
明星	2			2
明治	5	7		12
明治学	1			1
立教	4	1		5
立正	1			1
和光	1			1
早稲田	2	6		8
麻布	1			1
神奈川	5			5
神奈川工	2			2
鎌倉女	1			1
関東学	1			1
フェリス学院	1			1
新潟医療福祉	3			3
新潟工	2			2
金沢工			1	1
金沢工	11	1		12
佐久	3			3
長野保健医療	1			1
松本	1			1
松本歯	1			1
常葉	2			2
愛知	1			1
愛知学	1	1		2
金城	2			2
中京	1			1
中京部	1			1
豊田工	1			1
日本福	1			1
南山	1			1
京都外		2		2
京都文	1			1
同志	1	1		2
立命	5	3		8
龍谷	2			2
関西	1			1
近畿	3			3
関西学	3			3

外国大学等合格者数			
大学名	現	過	計
	0	0	0

私立短大合格者数			
大学名	現	過	計
	0	0	0

専修各種学校合格者数			
学科系統	現	過	計
医療	0	0	0
その他	2	0	2

就職			
就	現	過	計
民間企業			
国家公務員			
地方公務員			
団体職			
自営			
計	0	0	0

▼在校生の現況

現3学年は、数次の新型コロナウイルス感染症拡大の波を受け、休校措置や分散登校など、1年半余りに渡って、授業を初め学校生活で様々な変更を余儀なくされています。しかし、ほとんどの生徒は進路志望をしっかりと見据え、99%以上にあたる194名が大学入学共通テストに申しました。様々な制約がある中で、第1志望突破のために日々の授業に励んでいるという現状です。

▼進路実現のために

「主体的・対話的・深い学び」が、現在進行している入試改革のキーワードの1つです。岳南会員の皆様にご協力をいただきながら実施する折々の進路行事は、今年もコロナ禍によって変更した部分がありますが、北高生は逆境に屈することなく、主体的に自己の将来像を探究していくはず。本校は今年創立120周年を迎えました。長い伝統に培われてきた本校の岳南会員皆様による後輩生徒へのご支援を、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

進路指導係 阿藤 正彦

令和3年度生徒会行事

4月

◆対面式・新入生オリエンテーション・ 班活説明会・生徒総会

昨年に引き続きコロナウィルス感染拡大の影響を受け、全校一斉の行事はZOOMを活用して行われました。

運営においては、接続など比較的スムーズに実施できました。コロナウィルスの感染拡大の収束が見えない中、最大限できることを模索しながらの行事運営となりました。

◆強歩大会

2年ぶりの強歩大会の開催となりました。

天候にも恵まれ、全長約20kmのコースを完歩目指して取り組みました。アップダウンのある険しいコースでありましたが、生徒たちは一生懸命に取り組んでおりました。脚が棒になりながらも、最後はゴールでの達成感を味わうことができ、良い経験になったと思います。



4月・6月

◆高校総体 東信大会・県大会

各班、日頃の練習の成果を発揮すべく高校総体に挑みました。今後は上位大会においてより活躍できるように取り組んでいきたいと思ひます。以下、各班活動の主な結果です。

- ・卓球班 2-2 今井亮太 北信越大会出場
- ・水泳班 3-1 甘利一真 3-5 成田空央 1-5 神尾功汰
1-5 高柳愛佳 北信越大会4名出場
- ・地学班 3-5 宮内大樹 全国総文祭出場
- ・吹奏楽班 全国総文祭出場 など



6月

◆日輪祭

コロナ感染対策を講じながら、4日間の日程で行いました。

前夜祭、保護者限定公開(模擬店・クラス展示・文化発表など)、合唱コンクール、そして後夜祭と、企画した内容を全て実施することができました。

準備段階で様々な苦難に直面する中ではありましたが、生徒会役員生徒を中心に最大行事である日輪祭を見事成功させました。



編集後記

山々の紅葉の盛りも過ぎ、里々に霜の降りる11月末日、岳南会ニュース第32号の最後の校正を終え、ホッと一息入れておられます。初めて岳南会ニュースの係になり、何をして良いかほとんどわからず、周囲のアドバースに従いながら、9月辺りからやっと原稿の依頼を始めました。期限に遅れず校了できましたのも、玉稿をお寄せ頂いた皆様のおかげと心から感謝申し上げます次第です。

さて、現在、コロナウィルスの勢いはおさまっていますが、この岳南会ニュースがお手元に届く頃、その勢いがどうなっているのか全く予測のつかない状況です。そのような状況の中でも容赦なく時は流れ、当然、令和4年度大学入試は始まり、し、高校再編の動き、スーパー探究校としての取り組みなども、歩を止めることなく進んで行きます。今号では、その2つについて報告致しましたが、会員の皆様の一層のご理解とご支援をお願いしたいと思います。

来る令和4年が皆様にとって、また母校にとって実り多い年となることを祈念しながら、係からの挨拶とさせていただきます。

